

上杉文華館 目録  
2022年10月27日（木）～11月23日（水祝）  
関東管領上杉氏⑧～上杉禅秀の乱

| 資料名  | 員数   | 法量 (cm)      | 時代                  | 作者   | 所蔵            |
|--|------|--------------|---------------------|------|---------------|
| 国宝<br>上杉本<br><small>うえすぎほん</small> 洛中洛外図屏風 (～11/20)          | 六曲一双 | 各160.4×365.2 | 永禄8年 (1565)         | 狩野永徳 | 上杉博物館         |
| 複製<br>上杉本<br><small>うえすぎほん</small> 洛中洛外図屏風 (11/21～)          | 六曲一双 | 各160.4×365.2 | 原本 永禄8年 (1565)      | 狩野永徳 | 上杉博物館         |
| 国宝<br>上杉家文書<br>足利持氏料所進状<br><small>あしかがもちうじりょうしょしんじょう</small> | 一通   | 32.6×42.7    | 応永24年 (1417) 閏5月24日 |      | 上杉博物館<br>文707 |
| 国宝<br>上杉家文書<br>足利持氏御教書<br><small>あしかがもちうじみぎょうしょ</small>      | 一通   | 32.3×48.5    | 応永24年 (1417) 閏5月24日 |      | 上杉博物館<br>文706 |
| 国宝<br>上杉家文書<br>足利持氏御教書<br><small>あしかがもちうじみぎょうしょ</small>      | 一通   | 32.4×48.1    | 応永24年 (1417) 閏5月25日 |      | 上杉博物館<br>文705 |
| 国宝<br>上杉家文書<br>足利持氏御教書<br><small>あしかがもちうじ</small>            | 一通   | 32.4×47.8    | 応永24年 (1417) 8月22日  |      | 上杉博物館<br>文704 |

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り返しました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏たかうじの息子義詮・基氏よしあきら もとうじ、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第8回目は、「上杉禅秀の乱」をテーマとして関連文書を紹介します。上杉禅秀の乱とは、応永23年（1416）10月、前関東管領上杉禅秀（氏憲）うじのりが、鎌倉公方足利持氏もちうじに対して起こしたクーデターで、成功するかに見えましたが、幕府の持氏支持表明を転機に、翌年正月禅秀らが自害に追い込まれ、終結しました。この乱は地域社会の対立が鎌倉府構成者の対立に発展した結果起こり、東国を二分する抗争となったとされます。禅秀が出た犬懸上杉氏と山内上杉氏も対立しました。

この乱の戦後処理の一コマを、足利持氏と関東管領上杉憲基の動きから紹介します。

11月20日（日）までは国宝「上杉本洛中洛外図屏風」（原本）を展示します。

11月21日（月）からは「国宝上杉本洛中洛外図屏風」（複製）を展示します。原本の完成時を想定した1995年制作の複製です。